

2022年度伊那市ICT活用教育テーマ

未来を生き抜く力を育む

～学びに向かう力を育むためのクラウドの活用（仮）～

～「クリエイティブな活動」を通して「思考力、判断力、表現力」を育む（仮）～

伊那市のICT活用教育の推進は、市長主導による「新産業技術推進協議会」の教育委員会が2017年に提起した「学校教育の情報化ビジョン2017」が端緒となっています。これを受けて、2018年から3年間にわたり取り組みが行われ主要なICT機器が市内に整備されていきました。2020年からは「伊那市学校教育情報化委員会」が協議会を引き継いだ形で「ビジョン2021」を示し、現在は2021年からの3年間の取り組みが行われています。

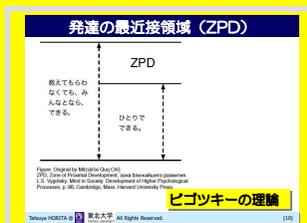
情報化委員会による2021年度末の総括では、伊那市のICT活用教育が「機器整備」から「研究推進」に軸足を移したことを確認しました。2022年からは市内各学校での研究推進とICTカンファレンスでのテーマを市内の共通のものとしていくことに決定しました。

2022年度の伊那市ICT活用教育のテーマは、「ICT Conference 2021 in INA NISHIMINOWA」での堀田龍也氏の講演で提起された内容を踏えています。下段には堀田氏の講演内容の該当部分を抜粋しました。「未来を生き抜く力を育む」のテーマは、昨年度のものを引き継ぎさらに発展させようという意味を持っています。具体的な取り組み内容は「クラウドの活用」と「クリエイティブな活動」です。

これをもとに、伊那市教育委員会、ICT活用教育推進センター、伊那市小中学校情報委員会では、本年度の活動を展開していきます。本年度のICTカンファレンスは伊那東小学校・東部中学校を会場に11月16日（水）に行われます。また、「学校CIO（学校長）研修会」はカンファレンスのプレ大会をかねて行われます。

「発達最近接領域」という学習の理論があります。大学で学習とか教育を研究してる人には常識的な理論です。右側にある「ひとりできる」というエリアがあります。ひとりできるといってやらせればいんですけど、その横にある「教えてもらわなくてもみんなやればできる」という、先生に教わらなくてもやり方を知ってる人のやり方を見たら俺もやってみようってできるというエリアですね。その差分のところをZPDといいます。これはみなさん心あたりあると思います。子どもたちの中に「ひとりやれ」というとはできないけど、「隣の友達と相談してやってもらえ」といえば、内容の理解が不十分だった子が助けられたり、あるいは本当はできていたけど不安だった子の不安を払拭できたりできる。そういう話です。そしてこれは、他者に頼らなくて生きていけないこれからの時代に、あるいは他者とうまく協働することが学力として求められる時代に、より一層注目されるようになった理論なのです。

このように一つの授業をもとに、「これからの時代に必要な力」とか、「授業の工夫」だけじゃなくて、「これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力をちゃんと育てる仕組みになっているか」という検証になっていきます。伝統的な学びのある地区だからこそ、そういう検証をしていただくと、多分今までのやり方でよかった、それでいいんだということが結構たくさんあると思います。一方で、新しいツールが来たから今までのやり方をもっとうまくショートカットさせることができ、さらに高いところまで子どももいけるようになることを考えていけると思うんです。（堀田氏の講演より）



クラウドを活用した学びは 社会の創造に不可欠な力を育みます



小学校1年 算数 ひきざんのおはなしもんだいづくり

「のこりはいくつ」というひきざんの言葉に着目し、7-3=4の式になるひきざんのおはなしの問題を作ります。担任の先生は、4月からiPadを使って授業を行なっています。文字入力についても「かな入力」を使って自分の名前を入力してきました。今まで「小学1年生では文字が上手に書けず、自分の考えを伝えるのが難しい」と考えていたようです。しかし、実際に児童が入力した文を読むと「小学1年生でもこんなことを思っているのだ」と驚いたといいます。「文字は上手に書けなくても、しっかりした文章は小学1年生から書ける」と確信したそうです。



小学校6年 社会 明治の国づくりを進めた人々

ペリーの来航により開国(アメリカとの貿易)を迫られたことを学んだ子どもたちが、自分が若者であったら1年後に開国をするか考える場面で、貿易の利益や危険性についてschoolTaktを活用しながら話し合いました。友だちと意見を交流するたびに、気持ちが「揺れて」いきました。「共同閲覧モード」で友だちのさまざまな意見に触れることができます。考えが変わった子どもには「考えの変化と理由」を自覚します。あまり書けない子どもは友だちの考えを参考にして自分の考えを書き込むことができました。その子の「学習への満足度」は高まっています。



中学校3年 数学 図形と相似

どちらのかわぶめんが割安なのか考えます。体積比と値段の比やそれぞれの比の値を比較し、自分が割安だと判断した根拠を仲間と説明し合ったり、仲間の考えの共通点を見つけ合ったりを通して、AとBのどちらのサイズのかかわぶめんが割安なのか根拠を明らかにして筋道立てて説明することを目指しています。共通する考え方を見つける場面ではschoolTaktの「共同閲覧モード」を使いました。ある生徒は、最初「体積」としか書いていませんでしたが友だちの書き込みに目を通した後、いっしょに自分の考えをまとめていきました。言いたいことはあるが、どのように表現してよいかわからず困っていたのだらうと思われます。

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現